日刊 動労千葉

83.7.2

No. 1380

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

動乗勤制度改悪の先兵 下

動労「本部」革マルを一掃しよう

「動労」第回全国戦長会議方針」を弾劾する

動労「本部」革マルは六月十七日の「全国戦術委員長会議」において、国鉄二十万人台―国鉄労働運動解体にむけた本格的全面攻撃としての「動乗勤制度」改悪攻撃を積極的に受け入れる「方針」を明らかにしました。

本号では、『7月1日付・第一三七九号＝（上）』にひき続き、動労「本部」革マルの裏切り方針を暴露、弾劾します。

反労働者的「働こう運動」路線の全面化を公言

動労「本部」革マルは、「内達問題に対するわれわれの主張について」の④の中で次のように述べています。

「…当局は『基地使命の低い箇所』『乗務効率の低い基地』を基地廃止の対象として計画を進めています。これに対してわれわれは基地廃止にともなう大規模な配転等を阻止するために、可能な限り基地の使命を高めることを前提に対応してきています」（引用）

これは、「外注化で人べらしをするなら、その分われわれが働こうではないか。人をへらす分働き度を高めようではないか」という、先の貨物・検修大合理化を率先してうけ入れていったあの悪名高き「働こう運動」を今度は運転職場の解体・再編＝乗務員運用大合理化のために大々的にもちこもうとする「理由」づけ以外の何ものでもありません。

それは⑤で、より露骨にうち出されています。

すなわち、「…当局は、六時間四十分―一週四十時間を超えて交番作成をすることを提案してきています。今日の国鉄の置かれている現状からして、職場と仕事を守ることを前提に、指摘されている『働き不足』については、クリアーする以外にないといえます」と述べています。（引用）

なんといういい草でしょうか！　これはもはや労働組合の方針などでは断じてなく、政府自民党や国鉄当局の言葉であり、生産性本部の文章そのものであります。

動労「本部」革マルは今日の国鉄労働運動の破壊攻撃の前に屈服し、「働こう運動」なる労使一体化＝産業報国会運動の路線化に唯一の生きのびる道を見いだし、「ブルトレ旅費返済」「57・11ダイ改」をはじめとする合理化・既得権剝奪攻撃を次々と受け入れる裏切りを行ってきましたが、さらにこの路線を強化し全面適用していくとの方針をうち出しているのです。

更に、⑤の最後で、「…『乗務効率の向上』を企図する当局とわれわれの『動力車乗務勤務の特殊性を制度として守る』ことの調和を図ることが、現実対応として求められているわけです」と述べています。（引用）

「当局とわれわれの調和を図る」とはよくぞいったものです！　これこそ、今日、動労「本部」革マルが反合闘争を闘う気力や方針などさらさらなく、労使協調路線にどっぷりとつかっていることを自己暴露するものであります。

動乗勤制度改悪への屈服を強要する動労「本部」革マル

「冬の時代論」と「働こう運動路線」の上に積み上げられた動労「本部」革マルのこの反動路線が、動乗勤制度改悪阻止の闘いに真向から敵対し、動力車職場の労働者を重大な裏切りと敗北に引づり込むことはあまりにも明白です。

更に、「今後の取り組みについて」の4として、「動力車労組の今日までの取り組み経過にもとづいて、六月末を最大の山場として交渉を進め内容上の前進をかちとり、動労の主導により解決を図ることとします」としています。（引用）

つまり、「現情勢下で動乗勤問題を闘っても組合員の利益にならない」から、当局と一体となって六月三十日までに妥結しようと全力をあげている動労「本部」革マル。彼らは、またもや当局の手先として真先に動乗勤制度改悪を受け入れ、他の労組にも押しつけていくために全力をあげているのです。

▽・△・▽・△

以上みてきた通り、動労「本部」革マルがまぎれもない当局の先兵であり、労働者の敵であることは誰の目にもはっきりとしています。彼らを打倒・一掃し、反合闘争の高揚かちとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！